

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
清熱剤 清虚熱剤 2		
じんぎょうべっこうきん 秦 朮 鱉 甲 散 衛生宝鑑	滋陰養血・清熱退蒸	地骨皮・柴胡・鱉甲各 30g・秦朮・知母・当帰各 15g の粗末 15g を青蒿 5g・烏梅 1 個と煎じ、空腹時に 1 回服用する。
	主治は、風労病の骨蒸（強い熱感）、盗汗、痩せる、口唇が紅、頰部の紅潮、午後の潮熱、咳嗽、脈がやや数などの症候。 風労とは、風邪が裏に伝入して陰血を損傷し、虚熱を引き起こした状態である。 滋陰清熱の鱉甲・知母と補血和血の当帰で滋陰養血、清熱し、秦朮・柴胡で驅風外解し、地骨皮・青蒿で透熱し虚熱を清する。酸渋の烏梅は斂陰止汗の配合である。	